

編集後記

昨年は、湾岸戦争に始まり、ソビエト連邦の崩壊など、国際的に大きな出来事がつぎつぎに起こった年でした。また、国内的にも、不動産、美術品、ゴルフ会員券などの投機的値上がりに基づくバブル経済が崩壊して、4万円近くまで上がった平均株価も2万円以下に落ち込み、内外共に激動とも言える一年でした。これに対し、「松本歯学」の方は平穏無事な一年と言えそうです。例えば、第1号から第3号まで、いずれも11～12編の論文が投稿され、頁数も120～130頁とほぼ一定でした。また、総説が欠けた号も有りませんでした。1992年もこの調子で行って貰いたいものです。

このように、論文の投稿は今のところ順調ですが、雑誌が出来上がるのは相変わらず遅れがちで、2号、3号共雑誌が出来上がったのは発行日から2ヶ月以上も経ってからでした。そこで、本号は、雑誌の出来上がりを早めるため、原稿募集の掲示を半ヶ月ほど早めてみました。原稿募集の掲示をみてから論文を書き始める人にとっては、締切まで一ヶ月というのは短か過ぎるので、原稿募集を半ヶ月早めると、投稿も半ヶ月早まるのではないかと考えた訳です。そのせいかどうか分かりませんが、本号で最後に投稿された原稿は、前号で最後に投稿された原稿より半ヶ月早目になりました。しかし、世の中そう甘くないような気がします。この作戦が成功するかどうかは、今後の様子をみなくてはならないでしょう。

本号の巻末に1992年の業績目録が掲載されています。例年のごとく著書、論文および学会報告の数を調べてみました。著書18篇、論文124篇、学会報告210題で、昨年の著書18篇、論文106篇、学会報告202題、あるいは一昨年の著書10篇、論文102篇、学会報告225題と比べ、論文数が増加していると言えそうです。論文を書く若手研究者の数が多くなってきたためかも知れません。この傾向は今後も続いて欲しいものです。

(野村 浩道)

松 本 歯 学	第18巻 第1号	(非売品)
	1992年4月25日 印刷	1992年4月30日 発行
編集兼発行者	小 林 茂 夫	
発 行 所	松本歯科大学学会	
	399-07 塩尻市広丘郷原1780	電話 0263-52-3100
印 刷 所	電算印刷株式会社	
	390 松本市筑摩3270	電話 0263-25-4329